



観光シーズンの幕開け

帝釈峡湖水開き・4/29

No.6

神龍湖畔で「第52回帝釈峡湖水開き」が行われました。

トレイルセンターしんりゅう湖では、比婆荒神神楽などのステージイベントや、地元食材を使った料理などのフードブースも開設されました。また、カヤックやツリーイングなどのアウトドア体験やおもちゃなどが当たる抽選会などの催しも行われ、参加者は楽しんでいました。

神龍湖では、鬼神太鼓の演奏を皮切りに、龍をかたどった2隻の龍船が、紅白の煙を吐きながら大迫力で登場するなど、観光シーズンの幕開けを告げました。



▲龍船が煙を吐きながら大迫力で登場

住民が楽しく交流

ほのぼのカフェ・4/24

No.8

本年4月から、毎週水曜日に、比和温泉施設あけぼの荘で、地域住民同士が交流を図りながらゆっくり過ごせる場として、ほのぼのカフェが開催されています。

幅広い年齢層の参加者がお茶やコーヒーを飲みながら楽しく交流できるようにと、地域マネージャーの埴内絵理さんを中心に、いろいろな体験イベントを企画。連休直前に開催されたこの日は、参加者全員で折り紙のこいのぼり作りをしました。

色や柄の違う折り紙に、顔と鱗を書き足してオリジナルのこいのぼりが出来上がると、「いろいろな柄のこいのぼりがあってきれい、それぞれの個性も出ていいね」と話しながら、和やかな時間を過ごしていました。



▲参加者はオリジナルのこいのぼりを折りながら楽しい時間を過ごした

体験を通して食を学ぶ

とうもろこし種まき体験・5/9

No.5

西城町油木地区で、西城小と美古登小の合同とうもろこし種まき体験が行われ、3年生21人が参加しました。この活動は、種まきや収穫体験を通して、食べ物大切さを知ってもらうことを目的に行われている食育教室の1つで、今回で11回目となります。

前油木営農組合長の高原芳典さんが、「日本の食糧自給率の問題や食べ物大切さ」「とうもろこしの種の植え方」などを説明した後、児童たちは、地元の方々の指導を受けながら、次々と種まきました。

参加した児童は「畑の土は冷たく、軟らかい場所や固い場所があった」「秋に収穫して食べるのが楽しみ」などと話していました。



▲児童は地域の方々の指導で畝3本に1時間かけて種まきました

楽しく続けることが大事

仙寿大学・4/26

No.7

総領自治振興センターで、高齢者の学習の場「仙寿大学」が開催され、22人が参加しました。

今回はシルバーリハビリ体操と、庄原警察署から講師を迎えて詐欺被害・交通事故について学びました。

リハビリ体操の指導士は、「いつまでも自分の体を自分で動かして生活できるように考えられた体操。1日1ミリでも関節が動くように、1グラムでも筋肉をつけようという気持ちでやるとよい。楽になったからといってやめずに、継続することが大事」と話していました。

参加者からは「寝返りが上手に出来るようになった」「体操や講義だけでなく、仲間と交流できることがうれしく、元気の源です」などの感想が聞かれました。



▲指導士と共にシルバーリハビリ体操

秋の収穫を楽しみに

たかの体験 田植え・5/11

No.2

上高自治振興区が主催する「たかの体験 田植え」が新市地区の宇山勝守さんの水田で開催され、東広島市や府中町など、市外から参加がありました。

参加者は、かまどを使ったご飯の炊き方を習った後、田植えに挑戦しました。まず、苗の扱い方や植え方の説明を受け、はだして水田に入り手植えをしたり、田植機での作業を体験したりしました。作業の間には、参加した親子が田んぼに浮かんだカエルの卵を初めて手ですくい、その感触に感動する場面もありました。

上高自治振興区の小笠原事務局長は「皆さんには秋の収穫を楽しみに、引き続き参加していただきたいですね」と話していました。



▲一列に並んで手植え体験

森林の大切さを学ぶ

口和町で森林教室・4/26

No.4

口和町の釜峰山森林浴公園で森林教室が開かれました。この日、遠足で訪れていた口北小学校の児童は、「びほく・森のサポーターズ」のメンバー4人から、紙芝居とクイズで森林が持つ役割や恩恵について学びました。また、登山しながら、広島北部森林管理署の職員から、釜峰山に群生する多くの種類の樹木の特徴などを学びました。

釜峰山にはワインの封をするコルクの原料になるアペマキの木が多くあり、幹の太さが子どもたち5、6人で手をつないでやっと届くくらいのももあります。森林教室に参加した児童からは、「森が持っている力のすごさがよく分かった」など森林や山への感謝の気持ちを表す声が聞かれました。



▲児童は紙芝居などで森林について学んだ

ボランティアで街をきれいに

市役所庁舎の草取り・4/17

No.1

庄原市シルバー人材センターの会員の皆さんが、地域の奉仕活動として、市役所市民ひろばの草取りをしました。

庄原市シルバー人材センターでは、地区別に班を設けて市内各地で草取りや清掃活動をしており、昨年からは、庄原地区の班が市役所市民ひろばを担当しています。

当日は、晴天で気温が高い中、21人の会員が参加し、「市役所を訪れる方が気持ちよく利用できるように」との思いで、精力的に取り組んでいました。



▲草取りの様子

将来の活躍に期待

ユース非核特使が市長を表敬訪問・4/25

No.3

掛田町出身で、福山市の盤進高等学校2年生の石田祥子さんが、4月29日～5月5日、ニューヨークで開催されたNPT（核拡散防止条約）再検討会議準備委員会に、外務省のユース非核特使の一人として派遣されました。派遣前の4月25日には、木山耕三市長を表敬訪問し、派遣に当たっての抱負を語りました。

石田さんは「被爆者の声を聞いた私にできることを精一杯頑張りたい。将来は庄原のピースリーダーとして平和な世の中を築いていく」と述べ、木山市長は「しっかりと役目を果たしてほしい。現地では、過去の歴史に対するさまざまな受け止め方を感じると思うが、それも踏まえて平和問題に取り組んでほしい」と激励しました。



▲しっかりと抱負を語った石田さん（写真中央）